

中津川市上下水道だより

令和4年度決算報告について

令和4年度水道事業、下水道事業の決算について報告します。主要事業は次の通りです。

水道事業

- ・配水管耐震化事業
安全・安心な水を安定して供給するため、老朽管更新工事、及び道路改良工事に併せて耐震管を使用し、管路の耐震化を行いました。
- ・浄水場浄水機能改善事業
山口深沢浄水場にろ過機を設置しました。
- ・リニア中央新幹線関連受託事業
リニア関連施設へ給水を行うための配水池・配水管等の詳細設計を行いました。
- ・中津川駅周辺管路更新事業
中津川駅周辺市街地における老朽管更新工事(R4~R6年度)に着手しました。

下水道事業

- ・下水道整備事業(坂本処理区)
リニア開業に向けて、坂本地区の下水道管渠整備工事を行いました。
- ・下水道施設長寿命化対策事業
ストックマネジメント計画(改築施設の優先順位をつけ計画的・効率的に管理する計画)を策定しました。
中核工業団地内の排水管更生工事を完了しました。
- ・処理施設の機械設備更新事業
処理場やマンホールポンプの機械設備等の更新を行いました。

経営状況、収支の詳細は次の通りです(次のページに続きます)。

上段…水道事業 下段…下水道事業

	経営指標	R3	R4	前年比	説明
A	経常収支比率 【算出式】 (経常収益)/(経常費用)*100	100.54%	94.46%	▲6.08%	給水収益/下水使用料収入や一般会計繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。
		103.85%	104.55%	0.70%	
	料金回収率 (給水収益)/(費用合計一長期前受金戻入)*100	95.74%	87.65%	▲8.09%	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標です。
	経費回収率 (下水道使用料)/(汚水処理費(公費負担分を除く))*100	107.81%	101.65%	▲6.16%	使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表す指標です。
B	有形固定資産減価償却率 (有形固定資産減価償却累計額)/(有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価)*100	40.74%	42.15%	1.41%	有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却が、どの程度進んでいるかを表す指標です。
		8.01%	11.51%	3.50%	
	管路経年化率 (法定耐用年数を経過した管路延長)/(管路延長)*100	20.40%	22.31%	1.91%	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標です。
	管渠老朽化率 (法定耐用年数を経過した管渠延長)/(下水道布設延長)*100	0.00%	0.00%	0.00%	法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表す指標です。
	管路更新率 (当該年度に更新した管路延長)/(管路延長)*100	0.56%	0.50%	▲0.06%	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。

OAは経営の健全性、料金水準の妥当性を表しており、100%以上が望ましいとされます。

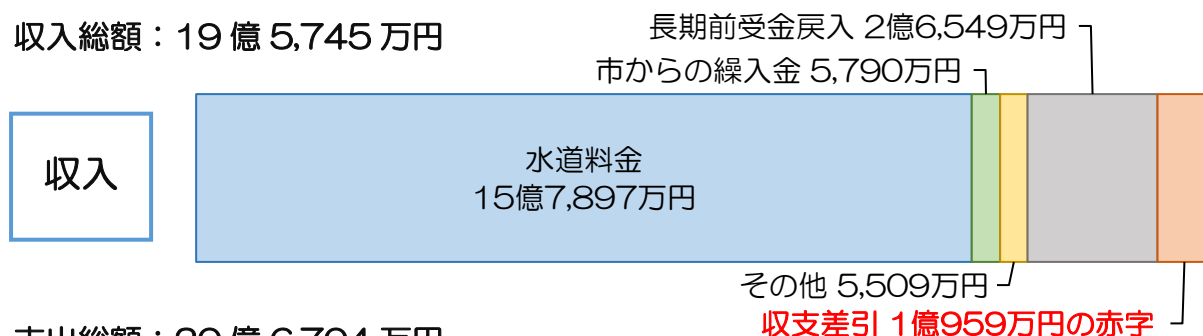
OBは施設の老朽化と更新率を表します(下水道はまだ管渠の法定耐用年数が到来していません)。

水道事業

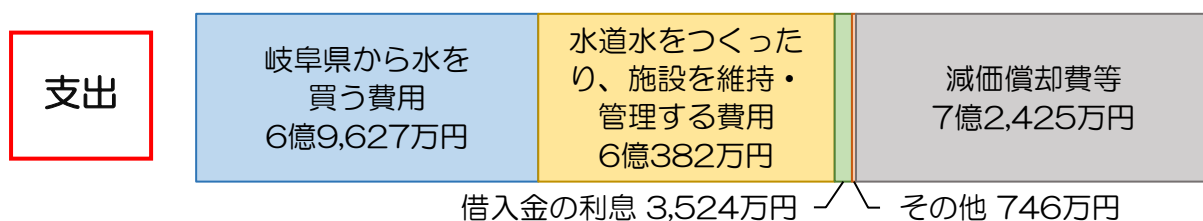
【☆収益的収支☆】

収益的収支とは…経営活動に伴い発生する収支を表します。

収入総額：19億5,745万円



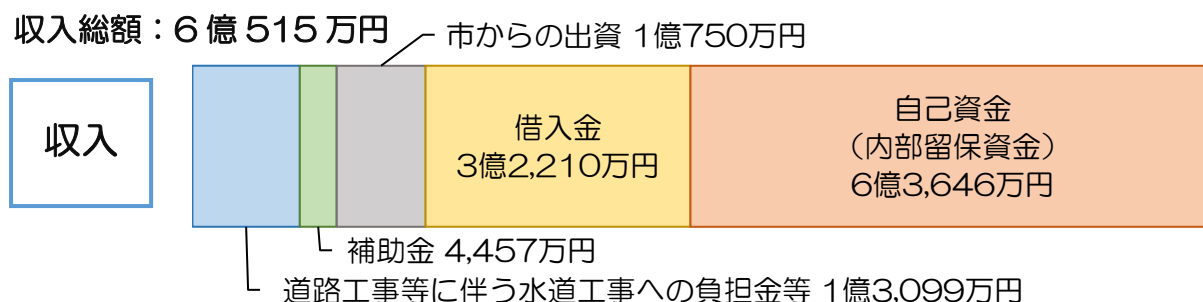
支出総額：20億6,704万円



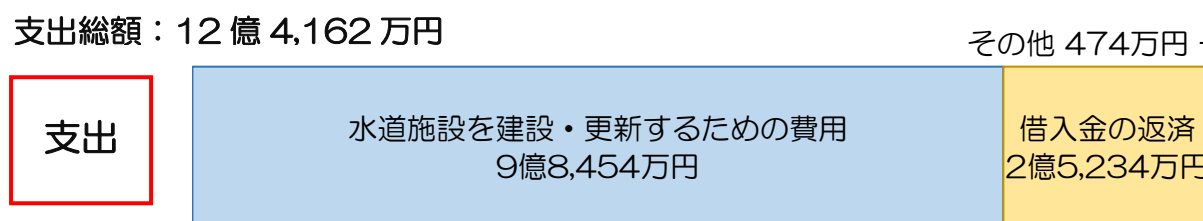
【★資本的収支★】

資本的収支とは…施設・設備を整備するための収支を表します。

収入総額：6億515万円



支出総額：12億4,162万円



水道事業については、令和4年度収支として1億959万円の純損失を計上し、赤字決算となりました。これは、主に隔月検針への移行調整のため、水道料金の収入が例年より1カ月分(約1億4,354万円)減少したことによります。このため、経営の健全性を示す経常収支比率や、料金水準の妥当性を示す料金回収率についても、100%の水準を下回る結果となりました。

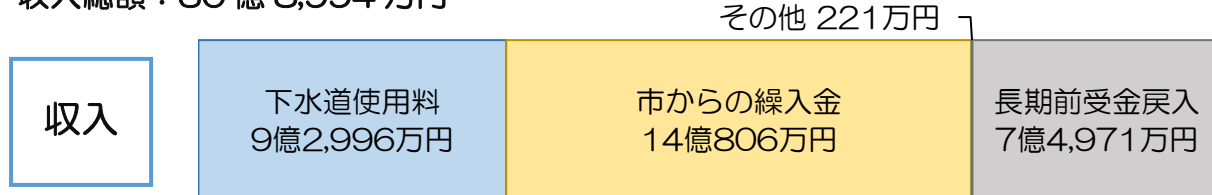
<隔月検針の導入について>

水道水をつくり、配るための費用や、汚水を処理する費用は、ご利用いただいているお客様の料金でまかなわれています。経費削減のひとつとして、メーターの検針を2カ月に1回にする隔月検針を導入しました。

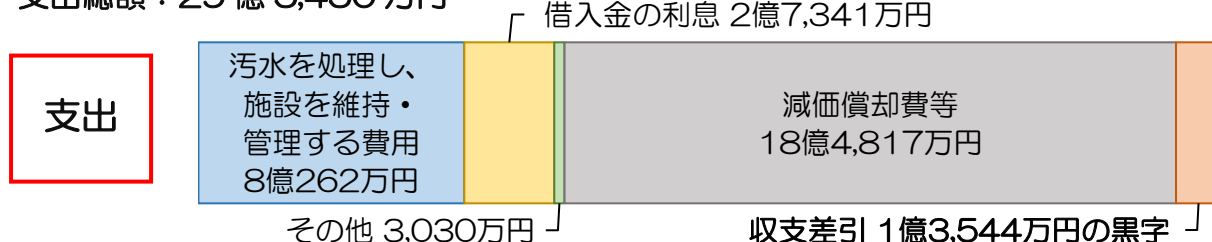
下水道事業

【☆収益的収支☆】

収入総額：30億8,994万円

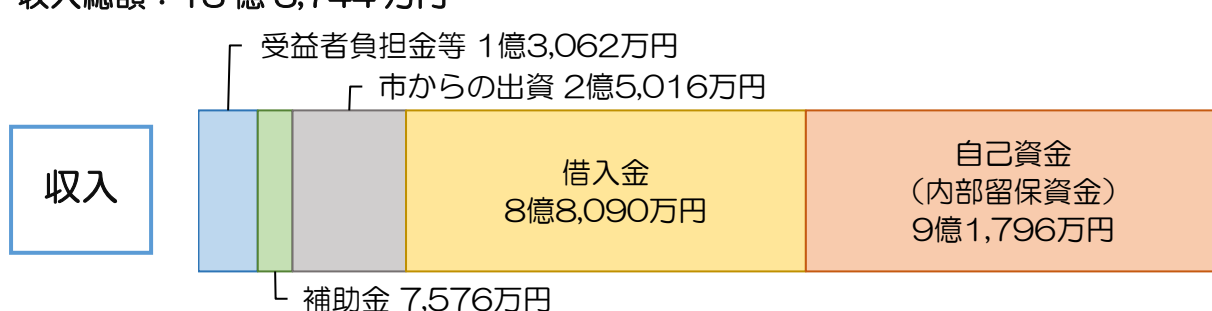


支出総額：29億5,450万円

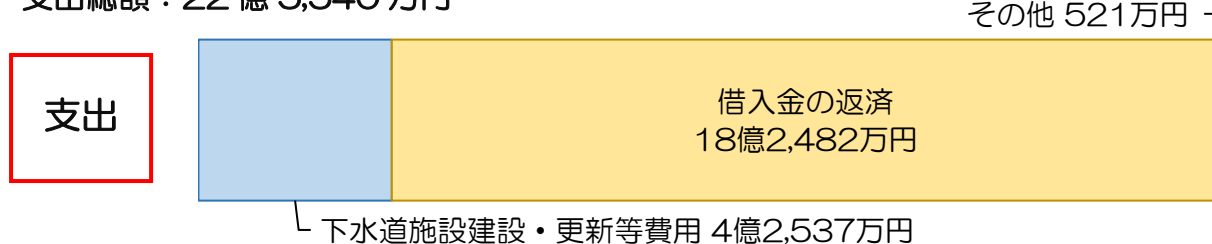


【★資本的収支★】

収入総額：13億3,744万円



支出総額：22億5,540万円



下水道事業については、令和4年度の収支は1億3,544万円の純利益を計上し、黒字決算を結ぶことができました。隔月検針への移行調整のため、下水道使用料の収入が例年より1カ月分(約8,454万円)減少しましたが、資産の償却、借入金の償還が進み、減価償却費、借入金の利息が減少したことで黒字を維持しています。経常収支比率、経費回収率の両指標については、100%の水準を維持できている半面、収入の減少、維持管理経費の増加傾向がみられます。今後の借入金の返済、施設更新に備え、収入源の維持、経費削減に努める必要があります。

水道事業、下水道事業とも、徐々に施設設備、管路・管渠の老朽化が進んでいます。一方で、一度に着手できる更新工事には限りがあるため、更新率はある程度の伸び幅にとどまります。そのため、耐用年数を超えても健全に使える資産を把握して、優先順位をつけるといった計画的な施設更新が必要となります。策定した計画を基に、世代間の負担が平等となるよう費用の平準化を図りながら、更新を実施していきます。

以上が令和4年度の決算状況です。令和2年度から続く、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による経営状況への影響は大きくは見られなかったものの、エネルギー価格高騰に伴う動力費の増加、物価高騰による薬品費等の増加が顕著となり、長期的な影響が懸念されます。引き続き経営状況を分析し、経営の健全性の確保に努めてまいります。

〈減価償却費と長期前受金戻入〉

減価償却費は、長期間にわたって使用される固定資産の取得に要した支出を、その資産が使用できる期間にわたって費用を配分したものです。

例えば、5千万円で管路を取得して50年間使用する場合、取得した翌年から50年間、年100万円を費用として計上します。

長期前受金戻入は、減価償却費の対の考え方です。固定資産の取得のための収入源に補助金などがあった場合は、収益も同じ期間で配分します。

例えば、5千万円のうち1千万円の補助があった場合、年20万円を50年間収益として計上します。

- 整備した年だけが負担増とならず、施設・設備を利用する世代間で均等に負担することができます。
- また、残っている費用を現在の資産の価値として、施設の老朽化を調べる指標にもなります。

冬季の水道管凍結にご注意ください

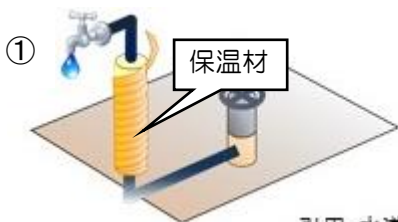
中津川市でも例年12月下旬ころから水道管が凍結し、宅内で漏水が起こるなどの被害が報告されます。目安としては、気温が氷点下4℃以下になると水道管が凍結しやすくなります。屋外の日陰、風当たりの強い、水道管が露出している場所は特に注意が必要です。

宅地内の水道管、メーターはお客様で管理していただくものです。漏水対応にかかる費用はお客様負担となりますので、早めに水道管の水抜きや保温といった凍結予防をし、こまめに点検をして冬季に備えましょう。

〈屋外水栓やメーターの保温〉

- ① むき出しになっている水道管は、保温材や保温ヒーターで保温してください（保温ヒーターのコンセントの入れ忘れにご注意ください）。
- ② メーターボックスの蓋（ふた）が金属製の場合は、発泡スチロールなどの保温材*をボックス内に入れると有効です。

*検針員による毎月の検針業務に支障がないように設置してください。



保温材（発泡スチロールなど）
☆ 取り出しやすくまとめるか、水道メーターにかからないように設置

下水道マンホール紀行～その8～

中津川市で使用している下水道のマンホールふたのデザインには、市内各地区の花や木をはじめ、伝統や文化の香が漂うものなど、郷土色豊かなデザインが描かれています。

今回は付知地区のものを紹介します。

付知地区マンホールふたデザイン▼

清流に泳ぐ「若鮎とシャクナゲの花」がデザインされています。シャクナゲは町の花として旧付知町の条例に定められていました。

中心の青色と鮎は清流付知川をイメージしています。

